

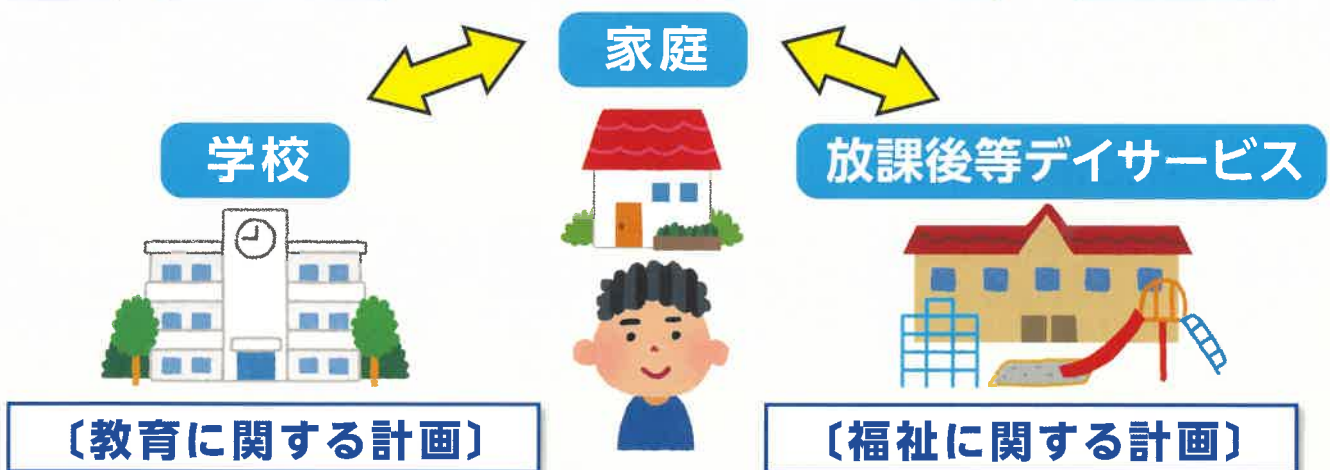
家庭・学校・放課後等デイサービスの連携 ～支援計画を共有し、こどもの安心と自信をつなぎます～

**障害のあるこどもが地域で切れ目なく支援を受けられるよう、
家庭、教育、福祉で個別の支援計画を共有しましょう**

特別支援学校や小・中学校等の特別支援学級に在籍しているこども、通級による指導を受けているこどもについては、学校が、本人や保護者の意向を踏まえつつ、保健、医療、福祉、労働等の関係機関と情報を共有しながら個別の教育支援計画を作成します。

また、放課後等デイサービスを利用するこどもについては、事業所が障害児支援利用計画や放課後等デイサービス計画（個別支援計画）を作成しています。

障害のあるこどもが切れ目なく支援を受けられるようにするためには、保護者を通じて、家庭、学校、放課後等デイサービスが支援に関する計画等を互いに共有し、日常の支援に生かしていくことが大切です。こうした連携が、こどもの安心と自信をつなぎます。



○個別の教育支援計画

障害のあるこども一人一人について、教育的な視点から適切に対応していくという考えの下、**家庭や関係機関との連携を図りつつ**、就学前から学校卒業後まで**一貫した的確な支援**を行うために、学校が作成する計画

個別の指導計画

障害のあるこども一人一人の実態に応じて、**指導目標や指導の手立て等**を明確にし、**きめ細かな指導**を行うため、学校が作成する計画

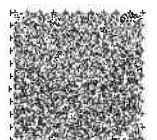
○障害児支援利用計画

個々の障害のあるこどもや保護者の生活全般における支援ニーズや解決すべき課題等を把握し、**最も適切な支援の組合せ等**について検討し、障害児相談支援事業所が作成する計画

○放課後等デイサービス計画 (個別支援計画)

障害児支援利用計画における総合的な援助の方針等を踏まえ、事業者が提供する**具体的な支援内容等**について検討し、放課後等デイサービスが作成する計画

※本県では「支援機関一覧」と「個別の指導計画」が一体化した「個別の教育支援計画」を参考様式として示しています。様式は特別支援教育課のWebサイトからダウンロードできます。





Q : 互いの支援計画で何を共有するの？

A : こどもの姿や、「こうすればうまくいく」という効果的な支援を共有しましょう。

ほくのこと分かってもらえて安心！
できる場面が増えて自信が持てたよ！



特別支援学校 小学部 6 学年 Aさん(知的障害)の例

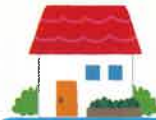
目標

集団の中で安心して過ごし、自ら活動に参加することができる。

支援の視点



学校



家庭



放課後等デイサービス

好きなものの得意なこと



好きな電車のパズルに取り組む中で、やりとりを楽しめるようにしてみます。

電車のパズル(20ピース)が好きで、外出時はカバンに入ると安心できます。

不安そうなときは、電車のパズルに取り組み、安心できるようにしてみます。

コミュニケーション



Aさんが分かる写真カードで、やりたいことを伝える学習をしています。

その日、食べたいおやつは写真カードで伝えてくれるようになりました。

トイレや公園等、行きたい場所を写真カードで伝えられるようにしてみます。

異年齢の人間関係



下学年とのグループ活動で、年下の友達を手伝う役割をお願いしてみます。

家では見られない年下の友達を気遣う姿が見られて嬉しいです。

自分より年下の友達の手助けをしています。

衣服の着脱



シャツの裏に付けた電車のフェルトの目印を見て、自分で着ることができます。

他の服の裏にも電車の目印を付けたら、自分で着られて満足そうでした。

着替えの際に、シャツの目印に注目して、自分で着られるようにします。

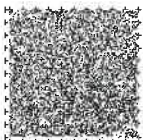
数の学習



ブロックで、5までの数を数えることができます。

好きな遊びを「あと5回で終わりね」と言うと、切り替えがスムーズになってきました。

おやつ係として、おかしを5個ずつ配るお仕事をお願いしています。





Q : いつ、どのように支援計画を共有するの？

A : 本人、保護者の同意のもと、互いの支援計画の作成時や評価時に、保護者を通じて共有し、日々の関わりに生かしましょう。

ぼくのこと
いつも
分かってくれて
嬉しいな！



特別支援学校(知的障害)小学部 前期の例

障害児支援利用計画

※障害児相談支援事業所が作成



学校



家庭



放課後等デイサービス

4月
・ こどもの実態把握
・ 保護者との懇談

5～6月
・ 「個別の教育支援計画(前期)」の作成
・ 本人、保護者と共有

6月
・ 指導、支援の実践

7月
・ 保護者との懇談

9～10月
・ 「個別の教育支援計画(前期)」の評価
・ 本人、保護者と共有

保護者を通じて
支援計画を共有

「Aさんは、この支援があると安心なんだね」

互いの支援計画を生かしながら子どもに関わる

保護者を通じて
支援計画を共有

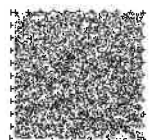
「Aさんにこんな成長が!」
「こうするともっと自信が持てるかな」

・「個別支援計画」

福祉に関する計画は、個々のこどものサービス利用開始時に作成されます。そのため、作成時や実施状況の把握(概ね半年に1回のモニタリング)の際にも、保護者を通じて互いの支援計画を共有することで、こどもの理解が深まり、より効果的な支援を行うことに役立ちます。

・「個別支援計画」

○「個別の教育支援計画(後期)」(9～10月)に作成し、2～3月に評価)も同様に、学校、家庭、放課後等デイサービスで共有



日常の連携のポイント

効果的な支援の情報等を共有し、活用するためには、日ごろの家庭、学校、放課後等デイサービスの連携が大切です。

○ 連絡体制、送迎時の留意点等の確認

- ・互いの連絡窓口、連絡先を確認する
- ・安全な送迎のための留意点を確認する
- ・こどもの体調不良や送迎時間の変更時の対応を確認する
- ・災害など緊急時の対応(保護者への一斉メールの活用等)を確認する
- ・互いの行事計画を共有する 等

○ 送迎時の引継ぎ等による日々の情報共有

- ・職員が互いの名札を確認し、その日のこどもの体調や様子を伝達する 等
(保護者の同意のもと、体調、食事の様子、排せつや服薬の有無等を確認できるシートを活用する等して、こどもの情報を共有しやすい工夫を行うことも考えられます。)

○ 互いの行事への参加、研修会や連携会議の開催

- ・学校の行事(授業参観等)や、事業所の施設見学等へ教職員が参加する
- ・職員対象の研修会、連携会議を開催する 等

学校の見学会に放課後等デイサービスの職員の方が来てくれたよ。ぼくが一人で帰りの用意ができるように、学校で使っている写真カードを先生が紹介したら、デイサービスでも同じカードを作ってくれたので、安心して取り組めるよ。一人でも帰りの用意ができるようになってきたんだ。先生や職員の方がそのことをおうちの人に伝えてくれるから、「すごいね」ってほめられて、自信がついたよ。今度、おうちでも一人でやってみせるんだ。



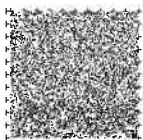
ぼくは大きな音が苦手で、音楽鑑賞会に行くのが不安だったんだ。でも、担任の先生が事前に写真や動画で場所や曲を教えてくれたから、どこで大きな音がするか分かって安心できたよ。太鼓の演奏では「やすみたい」カードを使ってホールの外から聞いたんだ。

放課後等デイサービスのお出かけでも、職員の方と動画を見て準備をしたよ。職員の方は、ぼくが遊園地で楽しめそうなことを一緒に考えてくれたんだ。ぼくのことをよく分かってくれて、苦手なときはカードで気持ちを伝えられたから安心だったな。苦手だった遊園地に行けたことは、ぼくの自信になったよ。今度は家族みんなで花火を見に行くんだった。動画で確認して、音がつらいときは車で休めるようにしてくれたから安心。「みんなで花火を見に行けるから楽しみ」って弟が言ってたよ。



<参考資料>

- ・「家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト報告～障害のある子と家族をもっと元気に～」(平成30年3月 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクトチーム)
- ・「家庭と教育の一層の連携等の推進について」(平成30年5月 文部科学省、厚生労働省)
- ・「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について」(平成30年8月 文部科学省)
- ・「児童発達支援ガイドライン、放課後等デイサービスガイドライン及び保育所等訪問支援ガイドラインの改訂等について」(令和6年7月 こども家庭庁)



栃木県教育委員会事務局 特別支援教育課
〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20
TEL 028-623-3381
URL <http://www.pref.tochigi.lg.jp/m05>
<発行：令和8(2026)年3月>